

京都産業大学 神山の絆

2026

母校は、いまの
自分をつくる

タンパク質

だった。

【特集企画】

大手食品メーカーで活躍
卒業生トークセッション

—
タンパク質動態研究所長による
タンパク質研究の最前線紹介

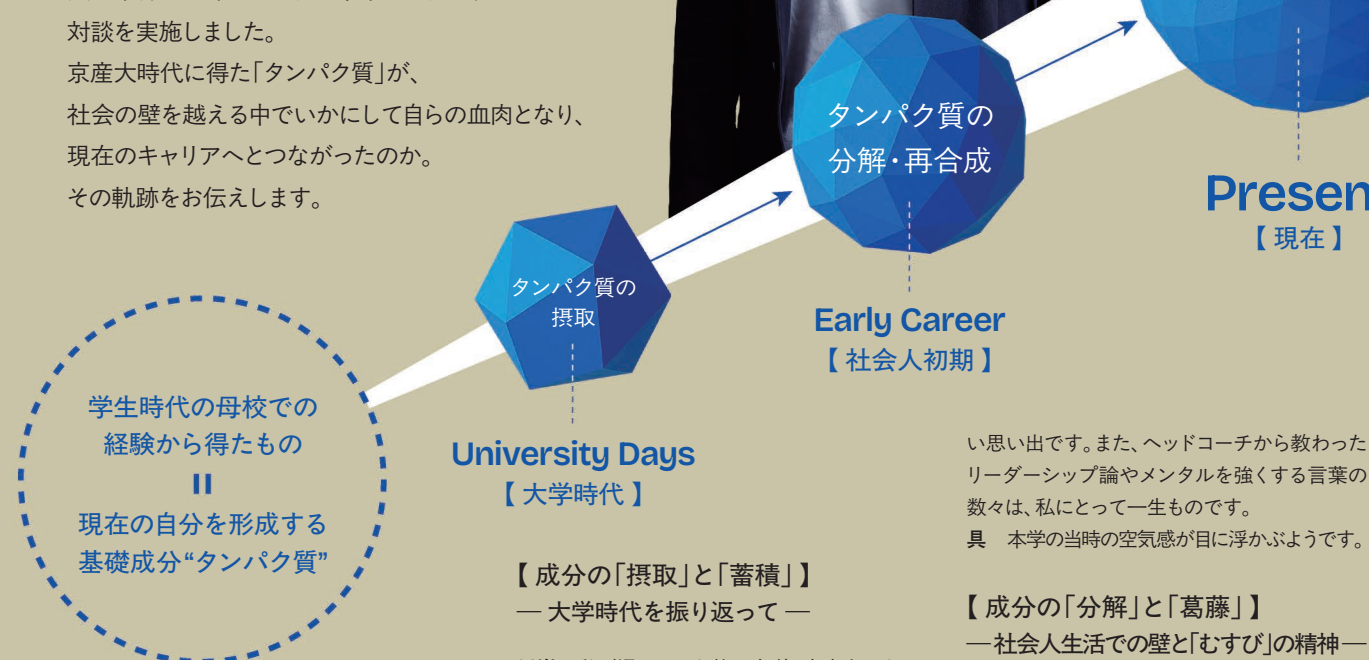
—
起業家学生INTERVIEW

The Elements of Who We Are

母校は、いまの自分をつくる
“タンパク質”だった。

社会で活躍する 卒業生が語る、 キャリアの構成要素

食品業界で活躍する2名の卒業生を招き、対談を実施しました。
京産大時代に得た「タンパク質」が、社会の壁を越える中でいかにして自らの血肉となり、現在のキャリアへとつながったのか。その軌跡をお伝えします。



Talk Member

株式会社永谷園
執行役員・SCM本部長
井澤 直登
1994年経営学部経営学科 卒業

森永製菓株式会社
上席執行役員CISO
経営戦略部長
川岸 聖史
1994年経済学部経済学科 卒業

京都産業大学
社会連携推進機構長
経営学部 教授
具 承桓

いい思い出です。また、ヘッドコーチから教わったリーダーシップ論やメンタルを強くする言葉の数々は、私にとって一生ものです。
具 本学の当時の空気感が目に浮かぶようです。

【成分の「分解」と「葛藤」】
— 社会人生活での壁と「むすび」の精神 —

具 その後社会人になって、最初にぶつかった壁はどんなものでしょうか？
川岸 「情報の取り方」ですね。当時は今のように便利な情報ツールはなく、現場や本社から紙で回ってくる情報を、ひたすら読み漁りました。しかし、あるとき先輩から「大量の情報を取ると表面的な理解に留まる。今は中身を知ることが



Future 【未来】

タンパク質の 生成

大事だ」と助言されて以来、考えを改めました。必要な情報を厳選し、それを深掘りするために、周囲の話を「傾聴」するようになりました。
井澤 私も同様で、情報をいかに取るか、という壁にぶつかりました。バブル崩壊後、得意先が続々と倒産する中で、「あの企業は危ない」という情報を他メーカーの営業マンからもらい、助かったことがあります。情報が簡単に手に入るようになった現在でも、そうした「生」の情報の重要性は変わらないと思います。
具 その後も経験を重ねる中で、転機となるような出来事がありましたか？
井澤 20代後半で自分の知識を「棚卸し」した際、「自分には売ること以外何もない」と気付いたことです。強い危機感を覚え、自分に足りないものを自発的に取り入れる、今という「リスクリング」を行いました。
川岸 私は2015年に全社を巻き込んだ「一斉行動」を発案・実践したことです。当時はイースターという文化を日本に根付かせようとしており、営業や工場、さらには本社役員も含めた全員が活動日を合わせて店頭に立ちました。頭で考えるだけでなく、周囲の理解を得て当社の「パイオニアの文化」を実践できたことは、非常に大きな経験でした。

具 たくさんの困難をご経験されているお二人ですが、京産大の「むすび」の精神は、支えになりましたか？
井澤 はい。卒業生とのつながりもその一つ。川岸さんを含め、色々な業界の最前線で活躍しておられる諸先輩方を見ると、勇気が出ますし、「自分もあの人たちのように都の誇りになりたい」と、思えるんです。
川岸 人とのつながりは、意識的につくろうと思うと面倒なこともあります。卒業生同士のつながりが自然にできることは、やはり「むすび」の精神があってこそだと思います。
具 卒業後も先輩が後輩を見守り、後輩がその



先輩の背中を見て頑張るという関係性は、卒業生の皆さんにとって大事なエネルギー源になっているんですね。

【成分の「合成」と「循環」】
— 激動の現在をいかに生きるか —

具 現代の若手ビジネスパーソンには、どのような能力や価値観が求められるでしょうか？
井澤 AIが業務に実装され、既存のやり方をガラリと変えるべき時代にあって、若手に求められるのは「発想の柔軟性」だと思います。今までやってきたことが当たり前ではありません。柔軟に新たな価値を作り、いく姿勢を持っていただきたいですね。
川岸 同感です。同時に、「タイバ」が重視される時代だからこそ、遠回りや時間を止める勇気を持つことを大切にしてほしいと思います。目の前の課題感をありのまま捉え、小さいところからでも良いので、スピーディーにトライを重ねる。このサイクルを回していくことで、見えてくるものがあるはずです。また、ひとつ上の視座から考え、そして行動することも重要です。個から組織、組織から企業、そして日本から世界という目線を持つことで、周りの人たちもついてきてくれると思います。
具 なるほど。一方で、現在のお二人はそれぞれに責任のあるお立場です。仕事において特に意識していることはありますか？
川岸 「今ある価値がこの先も継続するとは限らない」という前提に立って「ビッグピクチャー」を描く目線でしょうか。当社のパーパスは「世界の人々の笑顔で未来につなぐ」こと。そのためには、部分最適ではなく、グローバルな目線をもって、大きな全体像を描くことが重要になります。

井澤 私が強く意識するのは、食品メーカーとしての「ブランド」です。私たちが扱う食品は「人間の口に入るもの」ですから、信頼感はもちろん、「昔、お母さんが食べさせてくれた」といった経験など、ブランドの裏付けとなる価値が不可欠なんです。現在担当しているサプライチェーンの視点からも、その価値をいかに高められるかを意識しています。

【卒業生としての共鳴】
— 対話からの発見と、母校への期待 —

具 本日の対話から、得られた発見はありましたか？
川岸 井澤さんは高い理想を掲げながらも、軸足はご自身の担当であるサプライチェーンにしっかりと置いています。現場感覚をすごく大切にされる人であることが伝わってきました。
井澤 ありがとうございます。川岸さんは、グローバルや経営戦略というお立場から、非常に広い視点で会社を見ておられますね。これまでの自分にはなかった視点なので、とても勉強になりました。
具 最後に、母校である京都産業大学に期待することをお聞かせください。
川岸 これまで以上に産官学の連携の成果が問われる時代にあって、京産大にはその先頭に立つ「ファーストベンギン」になってほしいですね。そのために「平均的」ではなく、何かに特化して先を進み、グローバルな影響力をもつ大学になってほしいです。
井澤 同感です。「〇〇といえば京産大」と言われるように、強みを生かして「尖りまくる」ことを期待しています。
具 本学の建学の精神に則り、「尖ったこと」を奨励する教育の場作りを、これまで以上に力を入れていきます。本日はありがとうございました。

卒業生交流会 トークセッション&ネットワーキング

お二人には、2026年5月27日に東京オフィスで開催した「神山の絆」特別企画と東京オフィス・マンスリーイベントの共同企画「卒業生交流会トークセッション&ネットワーキング」にご登壇いただき、お話を伺いました。



タンパク質研究

生命活動の主役

最前線

本学ではタンパク質研究が活発に進められており、最前線の課題に挑み続けています。タンパク質動態研究所は、着実に新しい知見と価値が生み出されている研究拠点となっています。

タンパク質はエネルギー源になるだけでなく、私たちの体を動かし、生命活動を支える重要な役割を果たしています。生命科学部 先端生命学科教授であり、タンパク質動態研究所の所長も兼任する遠藤斗志也先生に、タンパク質研究の最前線についてうかがいました。

タンパク質はすべての生命活動の担い手

タンパク質は、遺伝子に書き込まれた情報を実際の生命活動へと変換する実行役であり、生命科学における重要な研究対象です。「ヒトの体の中には10万種類以上のタンパク質が存在し、必要なものを見分けて運んだり、構造を作ったり、力仕事をしたり、遺伝子が働くためのスイッチになったりと、体のありとあらゆるところで働いています」そう話すのは、タンパク質動態研究所所長（生命科学部先端生命学科教授）の遠藤斗志也先生です。遠藤先生は、タンパク質の働きを明らかにすることで、ミトコンドリアの仕組みに迫ろうとしています。

遺伝子解読からタンパク質の働きを知る時代へ

遺伝子配列を読むことでどのようなタンパク質が作られるかはわかっていても、それが実際の細胞内でどのように働いているのかを解明するのに必要な立体構造を知ることは簡単ではありません。タンパク質があまりにも小さいことに加え、細胞内の脂質や水溶液に囲まれた環境を維持したまま観察する方法が限られているからです。2025年に本学に導入された「クライオ電子顕微鏡」は、生体内に近い状態でタンパク質の立体構造を観察できる方法です。「クライオ電顕の登場によって、膜タンパク質のような結晶化しにくいタンパク質の構造も

観察できるようになり、研究の幅は大きく広がりました。このような高価な大型機器が本学にも導入されたことで研究が進みやすくなるだけでなく、学生が身近に触れられるようになり、教育面でも良い効果があると考えられます」このような技術革新によって、タンパク質研究は新たな局面に入っています。これまでは、遺伝子からどのようなタンパク質が作られるかがわかれば理解したといえました。しかし現在は、作られたタンパク質がどこで、どのような仕組みで機能を発揮しているのかまでわからなければ、そのタンパク質を理解したとはいえません。形や動きが見えるようになったことで、生命科学の理解はさらに深まりつつあります。

細胞のエネルギーを生み出すミトコンドリア

タンパク質の立体構造や分子どうしの相互作用が見えるようになったことで、私たちの

細胞への理解も大きく進んできました。ミトコンドリアについても同じことが言えます。ミトコンドリアは、細胞内でATPを産生する主要な細胞内小器官で、ヒトの病気や老化とも深く関わっています。近年の研究によって、ミトコンドリアは枝分かれしたひも状の構造を持ち、ダイナミックに形を変えながら増殖したり、機能が低下した部分を除去したりしていることがわかってきました。また、ミトコンドリアに必要なタンパク質の99%以上は細胞核の遺伝子によって作られていますが、それらがどのようにミトコンドリアへ輸送されているのか、その仕組みも少しずつ明らかになってきています。しかし、まだ多くの問題が未解決のままです。その一例が、タンパク質がどのように選別され、ミトコンドリア膜を通過するのかという問題です。遠藤先生は、このような問題にタンパク質の形を詳細に明らかにすることで迫っています。「ミトコンドリアの膜は脂質でできています

が、そのままではタンパク質は通り抜けることができません。膜に埋め込まれたタンパク質が孔を作ってくれているから通れるのです。ただし、その孔も何でも通すわけではありません。孔を作るタンパク質の形を詳細に明らかにすることで、どういう仕組みでタンパク質が交通整理されているのかを知る手がかりを得ることができそうです」

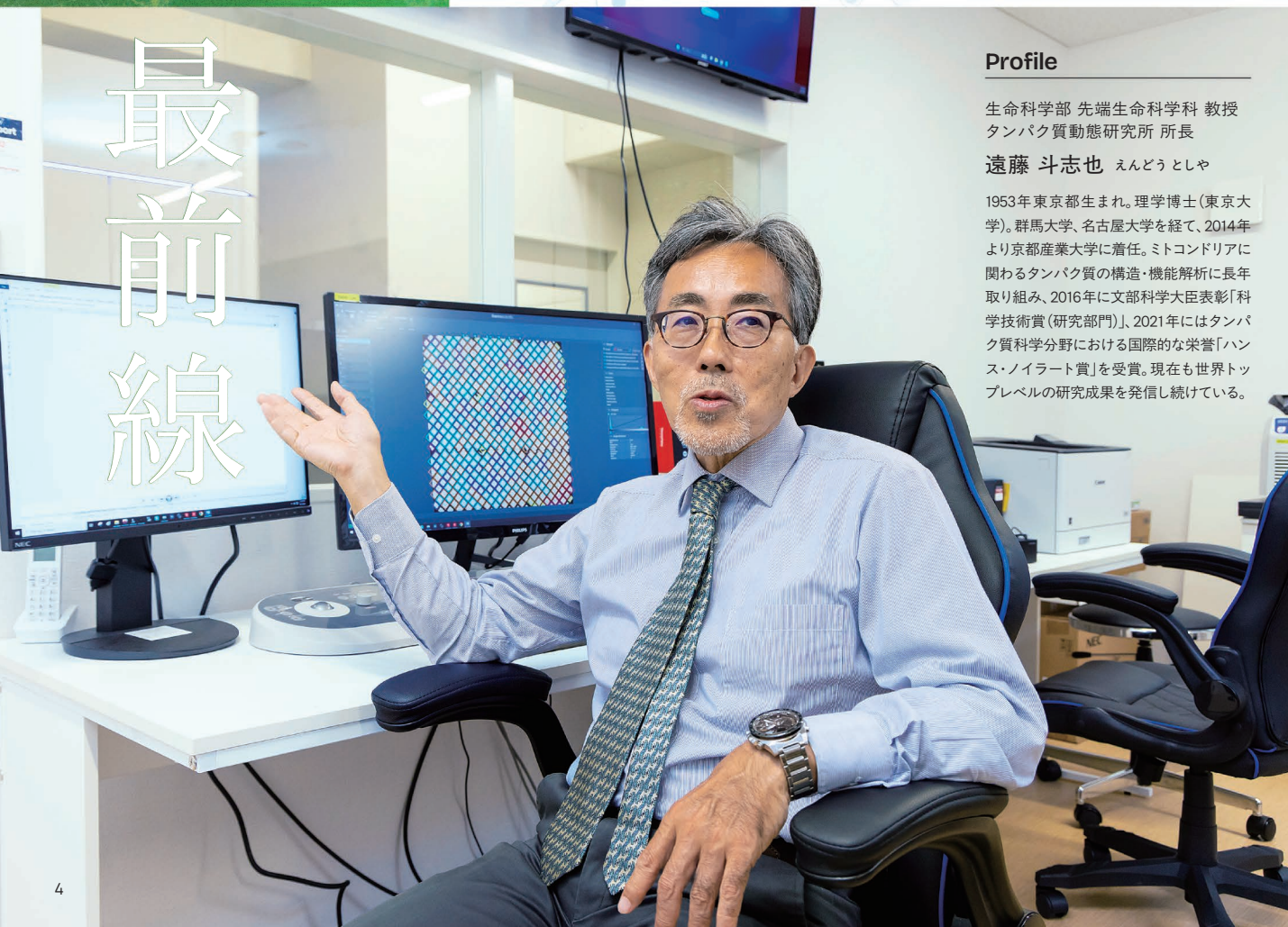
タンパク質は自然が作り出した素晴らしい発明品

タンパク質は、自然が何十億年もかけて生み出してきた素晴らしい発明品だと遠藤先生は語ります。「タンパク質はアミノ酸が一列につながった分子で、20種類のアミノ酸の組み合わせ方や数を変えれば、ほぼ無限のパターンが存在します。しかし、その中で生体内で機能を発揮する立体構造になるつながり方や組み合わせはほんのわずかです。その奇跡的な形のコレクションが、今、私たちの体の中で働いているのです。そう思うと、タンパク質研究は本当に面白いと思います」生命の基本原則を理解し、病気の発症機構を解明し、新たな治療法の開発につなげる。その鍵を握るのがタンパク質です。私たちの体の中で休むことなく働き続ける小さな分子の謎に挑む研究は、これからも生命科学の最前線で続いています。

最新鋭クライオ電子顕微鏡「Glacios 2」導入

巨視×微視、“見えないものを見る感動”を京都産業大学から

本学は2025年（令和7年）秋に、Thermo Fisher Scientific社製の最新鋭クライオ電子顕微鏡「Glacios™ 2 Cryo-TEM」を導入しました。クライオ電子顕微鏡は、タンパク質やウイルスなどの生体分子を極低温で凍結し、高解像度で観察できる最先端の顕微鏡で、医薬品開発や感染症対策に不可欠な技術として世界的に注目されています。本装置の稼働開始を、本学の新時代の幕開けと位置づけ、生命科学分野における研究・教育・産学連携のさらなる高度化を目指します。



Profile

生命科学部 先端生命学科 教授
タンパク質動態研究所 所長

遠藤 斗志也 えんどう としや

1953年東京都生まれ。理学博士（東京大学）。群馬大学、名古屋大学を経て、2014年より京都産業大学に着任。ミトコンドリアに関わるタンパク質の構造・機能解析に長年取り組み、2016年に文部科学大臣表彰「科学技術賞（研究部門）」、2021年にはタンパク質科学分野における国際的な栄誉「ハンス・ノイラート賞」を受賞。現在も世界トップレベルの研究成果を発信し続けている。

起業家学生 INTERVIEW

神山で交わる、挑戦者たちの熱意 可能性を広げ、次代を創り出す

2026年度に「アントレプレナーシップ学環」を開設した京都産業大学では、起業やビジネス創出を目指す学生たちの学びや活動が、ますます熱を帯びている。在学中に起業した4年生の坂元さんと、カフェ開業という夢に向けて邁進する1年生の田坂さんの二人に話をうかがい、ワンキャンパスで加速する「アントレプレナーシップ教育」の現在地に迫った。

Profile

(左から)
**合同会社 One Rise CEO
坂元 柊毅** さかもと まさき
法学部 4年生

今春設立した「起業部」には学内の起業・開発系コミュニティから約30名が参加。「ワンキャンパス」を活かした共創を生んでいる。

田坂 友護 たさか ゆうご
アントレプレナーシップ学環 1年生
生存率が厳しいとされるカフェ業界。だからこそ、他にはない独自の価値や差別化を日々模索している。

学生ならではの行動力と ワンキャンパスの交流が育む アントレプレナーシップ

——起業を志したきっかけは？

田坂 中学生の時にたまたま立ち寄ったカフェで、コーヒーの飲み比べセットを出してもらったんです。香りや味など、豆や焙煎のやり方で色々な特徴が出ることを知り、コーヒーの奥深さにすっかり魅了されました。同時に、パティシエになりたいという夢もあったので、「将来はカフェを経営しよう」と決意しました。コンセプトや経営について考えていたとき、京都産業大学に「アントレプレナーシップ学環」ができることを知り、迷わず飛び込みました。
坂元 私は、祖父の影響が大きかったですね。経営者だった祖父が亡くなった際、生前関わりのあった方々がたくさん葬儀に参列され、祖父が人生でどれだけ「価値提供」してきたかがわかりました。「自分もそういう生き方をしたい」と思い、起業を志しました。

——大学ではどのようなことを学び、実践してきましたか？

坂元 自分の「トガリ」になる専門性を身につけるために、法学部を選択しました。当時はまだアントレプレナーシップ学環が開設される前でしたので、授業で会社法などを学びつつ、自ら情報を集め、学外のビジネスコンテスト（ビジコン）やインターンシップなどに参加しました。そこで痛感したのが、東京と関西の「機会格



差」です。東京に比べると、学生がスタートアップ企業や、インターンイベントに触れられる機会が関西には少ないという点に、強い問題意識を持ちました。関西の学生にも幅広い選択肢をもち、可能性を広げてほしいという思いから、大学2年生の5月に「合同会社One Rise」を立ち上げました。事業としてビジコンなどを主催する中で、大学の枠を超えて関西の色々な学生と出会い、そこで繋がった仲間たちが、One Riseのベースメンバーになっています。

田坂 私はまだ入学間もないのですが、「基礎演習」の課題には驚きました。教員から現金1万円を渡されて、「1ヶ月間で増やさない」という内容です。私たちのグループは、眉毛サロンや編み物の販売など、自分たちでできる方法を考えて地道に増やしている最中です。「お金を稼ぐ」ことは想像以上に難しいのですが、試行錯誤して、利益を生み出すプロセスは、とても面白く感じます。

——京産大の環境や、学内外の人とのつながりは活動にどう影響していますか？

田坂 同級生はすでに法人を設立している人、エンジニア、伝統工芸の担い手など、一言では表せないほど個性が強い人ばかり。教員陣も学生以上にアクティブで、ビジネスアイデアを話すとすぐ「壁打ち相手」になって実践的なアドバイスをくれます。また、地方創生やスタートアップ関連のイベントに連れて行ってくれたり、経営者の方と会う機会まで用意してくれます。普通の大学生活では接点をもてないような人たちと出会うことができ、毎日が刺激の連続です。

坂元 そうした教員や全ての学生がこの神山にいること、つまり「ワンキャンパス」



が京産大の大きな特徴です。さらにそこに「Innovation ラボ」という施設が加わり、交流の拠点も生まれました。私の入学時は、学内に相談できる相手が少なかったのですが、今の環境はとても良いと思います。今年の春には、自主的に「起業部」を設立しました。学内にある複数の起業関連のサークルをまとめ、同じ「挑戦者」として共創できるつながりを生み出したいと思っています。

——今後の目標をお聞かせください。

田坂 大学3年生のうちに、自分のカフェを開くことです。今はそのためのステップとして、キッチンカーでのアルバイト、移動式のコーヒースタンドの出店などを通して、お客さんのリアルな反応を掴んでいる段階です。同時に、私と同じようにカフェを開きたいと考える学生もいるので、コンサルティングを通してサポートできる力をつけることも目標です。

坂元 特定の業界に属する社会人とは違い、私たち学生にはまだ色がついておらず、かつ行動力もあります。田坂くんのようにどんどん実践し、色々な人と交流することで、「1」を「50」にも「100」にもできると 생각합니다。私自身の目標は「選択肢を広げ、可能性を広げる社会構造」を作ることです。社会に出て、活躍する手段は、より多様なはずですが、起業を含め、皆が多様な選択肢を得ることができ、かつそれが良い循環を生み出し続ける仕組みのようなものを作りたいんです。具体的にどのようなサービスになるのかはこれから考えなければなりませんが、本来の可能性を發揮できていない人に選択肢を届け、誰もが自分で納得できる人生を送れる社会を作っていきたいと思っています。

「アントレプレナーシップ(起業家精神)」とは ▶ よりよい社会の実現に向けて果敢に挑戦し、新たな価値を生み出す精神

京都産業大学 ICHIOSHI! TOPICS

経営学部

法学部

国際関係学部

海上自衛隊等との 連携強化

経営学部では、これまで海上自衛隊への教員・講師の相互派遣等の連携事業を行ってきました。この度、経営学部を中心に築いてきた交流を全学的な取り組みへと発展させるため、包括連携協定を締結し、安全保障分野をはじめとする多様な学びの機会を創出するとともに、学生のインターンシップ受入れ、就職支援などを通じて、教育・研究・地域貢献に関する連携を推進します。また、学生の成長と地域社会への貢献につながる新たな連携を構築し、学生が実社会の課題に触れながら学ぶ機会としても期待されています。



文化
学部

デジタル ヒューマニティーズラボ (DHラボ)誕生

文化学部リニューアルに伴い、デジタル教育・研究の新たな拠点「デジタルヒューマニティーズラボ(DHラボ)」が誕生しました。歴史や文学、芸術などの人文学とデジタル技術を融合した学びを実践する教室で、3Dプリンタや大型モニタ、VR機器などを整備しています。すでに文化学部の授業や演習での発表、グループワークなどで活用が始まっており、学生同士が協働しながら学ぶ環境として機能しています。今後もDHラボを活用した文化学部ならではのデジタル教育の展開が期待されています。



詳細はこちら



理学部

株式会社 中央エンジニアリングと 連携協定を締結

ものづくりを基盤とした関連企業との連携による学びの発展、宇宙人材の育成および宇宙ビジネスに関連する開発・情報共有を目的として、「株式会社中央エンジニアリング」と連携協定を締結しました。この協定締結を契機に、双方向の情報交換、セミナーの開催、講義聴講をはじめとする技術交流や地域・社会貢献を目的とした共同イベントの開催、宇宙ビジネス分野に係る人材育成を目指します。すでに理学部・物理科学科「宇宙工学基礎」で企業講師を招き講義を実施するなど、宇宙ビジネス分野に係る人材の育成がスタートしています。



詳細はこちら



生命科
学部

2027年4月、 産業生命科学科は 「環境生命科学科」へ

2027年4月、「環境生命科学科」は、環境問題や食料問題などの社会課題に挑む学びをさらに発展。新たな一歩を踏み出します。また、同年8月、GREEN×EXPO 2027に出展します。最新情報は京都産業大学公式LINEで。

詳細はこちら



アントレプレナー
シップ学環

本学ならではの 唯一無二の 学びが始動

ビジネスを手段に社会変革(イノベーション)に挑む力を育む場として、学部相当の教育組織「アントレプレナーシップ学環」が始動。経営学部・法学部・現代社会学部の連携による分野横断型の学びに、理系のセンスも取り入れ、問いを構想へ、構想を事業へと育てていく学位プログラムです。初年度は入学定員30名に対し、31名でスタート。すでに「本気の学生」たちが集まり、各学部生とのコラボレーションも生まれ始めています。本学環は、京都産業大学にだけある新しい大学教育のカタチ。母校の挑戦が、またひとつ、動き出しました。

詳細はこちら



神山宇宙科学
研究所

神山宇宙科学研究所長に 渡部潤一氏が就任

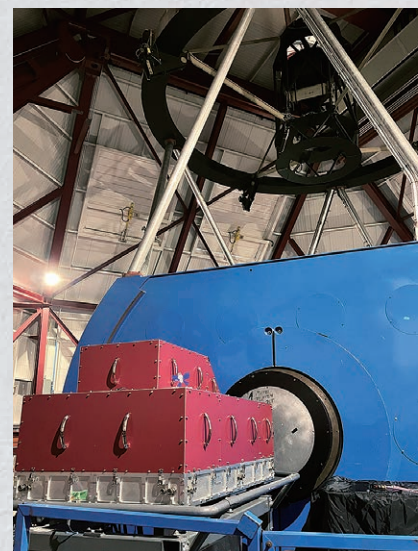
詳細はこちら



世界的な天文学者である渡部潤一氏を神山宇宙科学研究所長として迎えました。渡部所長は長年、太陽系天文学の第一人者として活躍するとともに、天文学の広報・普及にも大きく貢献されてきました。本学がこれまで積み重ねてきた金星研究や彗星研究の実績に、渡部所長の豊富な知見と発信力を加えることで、本学の研究推進力をさらに強化していきます。また、研究成果の発信や講演会の開催などのアウトリーチ活動を通じて、宇宙科学・天文学の魅力を広く社会へ届け、宇宙への関心を高める教育活動をさらに充実させていくことが期待されています。

本学発、 世界の天文学を支える WINERED

WINERED(ワインレッド)は、本学の教職員・研究員・学生が中心となり、東京大学や関連企業との連携も活かして開発した天文観測用の近赤外線高分散分光器です。世界最高レベルの高感度を誇り、人の目には見えない近赤外線を高精度に分け、星や惑星の成分・運動を調べることができます。2022年にチリ共和国・ラスカンパナス観測所の口径6.5mマゼラン望遠鏡へ移設され、2023年から本格的な科学観測が行われています。天の川銀河の化学進化、太陽系外惑星の大気、原始惑星系円盤の研究など、世界中の研究者の成果創出に貢献しています。



京都産業大学 東京オフィス

首都圏における学生・教職員の活動支援をはじめ、卒業生・行政・企業・団体等とのネットワークの拡充とより強固な関係構築を図るとともに、大学運営に関わる情報収集・本学の情報発信等を通じて、人と人、人と情報、そして東京オフィスと大学をむすび、新たな価値を創出する、すなわち、“むすんで、うみだす。”拠点となることを目指します。

開室時間	平日 10:30-17:30 ※開室に関する情報はWEBにてお知らせします。
利用者	本学関係者(学生・教職員)、名誉教授、元教職員、卒業生
会議室貸出	本学関係者、名誉教授、元教職員、卒業生が1名以上含まれる場合に限り [利用料] 会議室のみ有料 ◆1時間あたり 2,200円(税込) ※本学関係者が本学業務に関することで利用する際は無料 [予約方法] ①事前電話相談の後「施設利用申込書」に必要事項を記入の上、メールで申込み ②利用許可通知・予約の成立 施設利用申込書の受領後、当該施設のご利用可否について連絡 ※この連絡をもって予約成立、以降キャンセル料が発生
問い合わせ先	京都産業大学 東京オフィス 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-1-12 虎ノ門ビル4階 TEL: 03-5521-0136 e-mail: tokyo-office@star.kyoto-su.ac.jp https://www.kyoto-su.ac.jp/campus/#sec01 東京オフィス WEBページ

東京オフィス
WEBページ



幕末日本の肉食文化と徳川慶喜

執筆者紹介 笹部 昌利 ささべ ますとし [文化学部 京都文化学科 教授]
 【専門分野】幕末維新政治史、日本近代史。
 同分野の歴史について幅広いアプローチで研究を展開。今回は「タンパク質」というテーマに合わせ、肉を好んだ将軍・徳川慶喜の逸話や、相手の流儀で難局を越えようとした幕末の外交について執筆。



図2 徳川慶喜
 (国立国会図書館デジタルコレクション『徳川慶喜公伝 三』所蔵の画像を加工)

食欲はタブーを超える

執筆が完全に煮詰まったり、学生への指導が思うにまかせなくなったりして、にっちもさっちも行かなくなった時、「とりあえず肉でも食うとこか」、「焼肉でもしばいときましょか」などということが、筆者にはまあある。なにも牛肉に栄養を求めているわけではない。美味しい肉を焼いて、食べ散らかして、鬱屈した気持ちを切り替えたい、それだけである。その意味でいえば、肉は、筆者の日常を活性化させ、気力を維持するための栄養素、さしずめタンパク質的存在と言えるかもしれない。

わが国における肉食は、675年、天武天皇より出された「肉食禁止の詔」により、それが公的に禁じられたのち、約1200年の長きにわたって、禁忌とされてきた。しかしながら、元来、われわれの先人たちは、海、川、山からの恵みを収穫することによって、命をつないできた。それは、縄文時代におけるドングリ類など木の実の採集、狩猟より得られる魚介類、鳥類の食材化にはじまる。たとえ、仏教の殺生戒があったとて、鹿、猪などの獣肉や牛肉は確実に食されてはきた。時に堂々と、時には「薬食い」という名目のもと、肉は食われてきたのである。「その肉は獣肉にあらず」。猪は「山鯨」、鹿は「紅葉」、馬は「桜」などと、隠語で呼ばれ食された。江戸では19世紀の初め、文



図1 名所江戸百景 (歌川広重(二代)) びくにはし雪中 (慶應義塾大学メディアセンターデジタルコレクション)

化・文政年間には、獣肉を扱う「ももんじ屋」が繁盛した。「ももんじ」とは、「けだもの」を指し、江戸の麹町や両国などに常設店が軒を連ねたという。そこでは、獣肉をネギとともに味噌や醤油で煮込む「肉鍋」が提供され、活力増進をタメエに食べられた。「薬食い」を殺し文句に、幕末の江戸で勤番士として働いた紀州藩士酒井伴四郎は、豚肉や豚鍋を酒の肴に楽しんでた(『紀州藩士酒井伴四郎関係文書』)。それはまさに食欲がタブーを超える瞬間であったといえようか。

肉を喰らう将軍

筆者が専門的に研究する幕末維新政治史で、肉好きの政治家として異彩を放つのは、15代将軍徳川慶喜である。慶喜の肉好きには、その背景として、父である水戸藩主徳川斉昭の好物が牛肉料理であったことが影響しよう。江戸時代、水戸藩徳川家には牛肉が贈答された。彦根藩井伊家から將軍家および徳川御三家に贈られた「牛肉」の味噌漬けに、斉昭が心を奪われたのである。水戸と彦根の関係は、彦根藩主井伊直弼の大老就任により、その政治方針を違え、徳川斉昭を政界引退に追い込んだ張本人である井伊直弼に対する怨念の結果として、安政7年(1860)3月3日、江戸城桜田門外で、水戸藩浪士が井伊直弼を殺害に及んだことにも現れ、修復不可能の状況になる。事ここ及び、牛肉贈答どころではなくなったのである。

息子の慶喜は、特に「豚肉」を好んだ。豚肉は、琉球文化の影響を受け、薩摩藩では豚の飼育と消費が食文化として定着しており、東京都港区芝にあった薩摩藩屋敷跡からは大量の豚の骨が発掘されていることからもうかがえる。もとより、薩摩からの贈答もあろうが、父譲りの肉好きもあいて上質の豚肉を求めた。慶喜は、将軍就任前にも、将軍後見職、禁裏守衛総督として、京都にいたが、元治元年(1864)、在京の薩摩藩家老小松帯刀との政治的なやりとりのなかで、豚肉を所望したとの

エピソードが伝わる。在京中の小松が国元の太久保利通に出したとされる書状には、以下のようにある。

(前略)一橋公(慶喜)より豚肉度々御所望これあり、拙者持ち合せのみ進上つかまつり置きそうろうところ、もはや三度迄ご所望にて、皆々差し上げそうろうところ、又々お使いをもってご相談ござそうらえども、もはやござなくそうろうとお断り申し上げそうろう儀にござそうろうあいだ、申しまいりにあい成りそうろうよう、御取り計らひくだされたく、琉球豚を過分に持ち越しそうろう人これ無く、大名と申すは勘弁ならざるの者、大きにこまり入り申しそうろう(以下略)(『玉里島津家史料』3巻)

慶喜から豚肉を求められ、小松自身が京都に保有している豚肉をすべて進呈したが、3度にわたり、「くれ、くれ」とねだられる。慶喜はどうやら上等品の「琉球豚」すなわち薩摩黒豚を求めているようだ。大名というお偉方は我慢ができないらしい。本当に困ったことだと。徳川慶喜は、京都ではその天皇家に繋がる血筋から特別待遇を受けていたが、江戸城の大奥などでは、豚肉ばかり食べたがる慶喜を「豚一」(豚好きの一橋)といって嘲笑したといわれる。

しかしながら、慶喜の食に対する思いは、慶応3年(1867)3月、兵庫開港にかかる外国公使との外交の場において活かされた。イギリス・オランダ・フランス・アメリカの4カ国公使を別々に大坂城に招聘し、本格的なフランス料理のフルコースを振る舞った。大坂城の御殿、白書院の次之間に、椅子やテーブルを用意し、肉を含むフランス料理17品、菓子類10品、酒類5種、さらに部屋を連歌の間に移して、コーヒーと葉巻、リキュール9種、茶の12品でもてなされた。各国公使とテーブルを囲み、歓談をしながら、兵庫開港にかかる外交交渉がなされた。

肉を喰らう将軍は、相手の流儀で幕末外交の難局を越えようとしたのである。

NEWS お知らせ一覧

ホームカミングデー

11月1日(日)～11月3日(火・祝) 神山祭と同時開催

1日目 11月1日(日)

11:00～12:00 ウェルカムセレモニー
 講演会や学生団体の発表等を予定
 ●内容に関しては、今後変更になる可能性があります。
 ●参加は事前申込制となります。
 12:15～16:00 喫茶コーナー
 卒業生が集まり、楽しく交流会
 (喫茶コーナーから参加の場合は事前申込不要)

2日目・3日目 11月2日(月)・3日(火・祝)

課外活動団体やサークル、ゼミナールなどの懇親の場としてご利用いただける教室の貸出を行います。また、喫茶コーナーも予定しております。



※詳細は改めてWEBサイトにてお知らせいたします。

ご支援をお考えの皆さまへ

募金事業(京都産業大学 教育振興資金)のご案内

本学では、皆様からいただいた寄付金を教育内容の充実、奨学金制度の充実、教育研究施設・設備及び環境の整備、課外活動の活性化及びその施設の整備、図書の充実、国際交流の促進などに活用させていただきます。

また、用途を指定した寄付として「KSUクラブ応援募金」、「起業家学生支援」、「現代社会学部次世代型リーダー育成支援金」、「古本募金」があります。本学の教育・研究及び学生支援のさらなる充実に向け、卒業生の皆様にも改めてご支援をお願いいたします。

募集事業
 サイト



サタデージャンボリー

京都産業大学では、地域の皆さまに大学をより身近に感じていただくため、キャンパスを解放した交流イベント「サタデージャンボリー」を毎年開催しています。未就学児から小学生・中学生までを対象に、遊びと学びを楽しめる多彩なイベントをご用意! 本学の特色ある施設や教育・研究を活かした、ここでしか体験できないプログラムが盛りだくさんです。今年も、地域と学生がふれあい、楽しく交流できる1日をお届けします。ぜひ、遊びにお越しください!



特設サイト



開催日 令和8年9月26日(土)
 10:00～15:30

ここがポイント! ニュース解説 ハテナの探究

「ハテナの探究」は京都産業大学が運営するニュース解説チャンネルです。ニュースで話題になっているものの、メディアでは詳しく説明されていないこと。科学研究や歴史など、幅広い分野で多くの人は知らないけれど、知っていると世の中のことがよくわかることなどをテーマに各研究分野の研究者(教員など)が分かり易く解説していきます。



YouTube



アンケートプレゼント企画

「神山の絆」について、卒業された皆さまからのご意見をいただきたく、アンケートを実施します。アンケートにご協力いただいた方を対象に、抽選で合計100名様に景品をプレゼントいたします。アンケートの内容は、興味のあった記事や新たなコンテンツのご希望など、約3分程度で完了します。応募はLINEに登録いただきメニューからご応募ください。

応募期間

令和8年10月25日(日)



LINE友だち
 登録募集中!

本学では、クラブ・サークル情報や、参加可能なイベント、大学の最新の取り組みを紹介した動画などを、随時発信をしていますので、卒業生の皆さまの友だち登録をお待ちしています。

※友だち登録後、「受信設定」より「卒業生」を設定頂くと、メニューが表示されます。



抽選の
 ご応募は
 コチラ

参考文献

- ・石毛直道『日本の食文化史』岩波書店、2015年
- ・『徳川斉昭・伊達宗城往復書翰集』校倉書房、1993年
- ・『鹿児島県史料 玉里島津家史料』4巻、1995年
- ・『紀州藩士酒井伴四郎関係文書』清文堂出版、2014年
- ・渋沢栄一『徳川慶喜公伝』4巻、平凡社東洋文庫、1968年
- ・徳川慶朝『徳川慶喜家の食卓』文芸春秋社、2005年

本学は昨年、創立60周年という節目を迎えました。

これまでに16万5千人を超える卒業生を社会へと送り出し、それぞれの道で活躍されています。

その原点を振り返ると、60年前の第2回卒業式において、総長が卒業生に贈った言葉があります。

そこには、若者たちへの深い信頼と未来への熱い願いが込められていました。

本号では、記念すべきその言葉を改めてご紹介いたします。

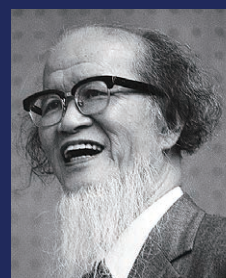
荒木俊馬総長の言葉

宇宙の涯までも天翔るサギタリウスの如く
雄大壮麗な希望を抱き、その実現を夢る事は
諸君のような青年時代の特権であります。
その特権を何時までも放棄せず、
遠大な希望の決意を揺がしてはなりません。
如何なる難局に当面しようとも
不撓不屈の精神で自己を棄ててかかれば、
アポロ宇宙船の月着陸さえ実現した時代です、
どんなに不可能だと思われた事でも、
それが実現した例の方が寧ろ多いではないでしょうか。
最後に諸君への、今この卒業式に出席しておられる
第二期卒業生へのお祝の無形財として、
古代ローマ帝国の大思想家プリニウス・パテルの言葉を贈って私の祝辞を終わります。

Quam multa fieri non posse,
priusquam sint facta, judicantur.

意識すれば「それは到底実現不可能だと思われた事で、
その実現が成功した事の如何に多きことよ」といった意味です。

「第二回卒業式祝辞」(昭和45年3月20日)



創設者
荒木 俊馬 先生
(1897～1978)



発行：京都産業大学 社会連携センター
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 TEL.(075)705-2952
<https://www.kyoto-su.ac.jp/>
E-mail: shakai-renkei@star.kyoto-su.ac.jp